

研究推進校事業報告書

<取組と成果のポイント>

- ・ 道徳科の授業において「問題解決的な学習」を取り入れるなど、子どもたちが主体的に考え、議論できる指導法の工夫
- ・ 1枚ポートフォリオや抽出児の設定などによる、個を伸ばし、支援するための評価方法の工夫
- ・ 他の教科や活動と道徳科の授業を結びつけるための総合的な単元「フレンドシップユニットの実践

1 研究推進校（又は推進地域）の概要

学 校 名	所 在 地	電 話 番 号	児童数	備 考
岡崎市立竜美丘小学校	岡崎市竜美台一丁目1番地	(0564) 52-1275	903名	

2 研究課題

- (1) 考え、議論する道徳科の授業を実現させるための指導法の工夫
 - ① 多面的・多角的な見方や考え方を育てるための授業の実践
 - ② 道徳的な実践に結び付ける評価の在り方の工夫
- (2) 子どもの道徳性を伸ばすための学校教育全般の見直し
 - ① 道徳教育を中心とした教育課程・年間指導計画の作成
 - ② 道徳的な実践する場の設定

3 研究主題とその設定理由

(1) 研究主題

豊かな心をもち、21世紀をたくましく生き抜く子どもの育成
—道徳的教育課程を中心として—

(2) 主題設定の理由

2016年夏、スマートフォンを片手に画面を見つめ、黙って公園を歩く人々のことがニュースになった。ゲームに興じる若者たちである。通信機器の発達により、便利になったことは数多くある。その反面、人と直接コミュニケーションをとることが少なくなっている。「友達と遊ぶ」という子どもたちが、会話をすることなくゲームに熱中していたり、隣にいる相手にすらSNSを使って連絡をしたりしている。現代社会において、人間関係が希薄になっていることは否めない。このような時代だからこそ、仲間と協調しながら何かを創り上げていく経験を通して、子どもたちの主体性・社会性・道徳性を育てていくことが大切である。心が通い合ったコミュニケーションを経験させることこそ、学校教育の大きな意義の1つであると考えます。

本校は岡崎市の中心部に位置し、市内を見渡せる高台にある。一戸建ての閑静な住宅や高層マンションが多く、保護者や地域の教育への関心は高い。学校や学区の行事には大変積極的に参加する家庭が多く見られる。一方で、老朽化した公営住宅や児童養護施設、多くの外国籍の家庭を抱えており、子どもたちの家庭環境は大変多様になっている。地域で対人関係の在り方を学ぶ機会は減少しているため、社会性を身につけさせることが課題となっている。子どもたちは学ぶ意欲があり、高い理解力・応用力をもっていることが、全国学力学習状況調査の結果から分かる。部活動や学校行事にも意欲的に参加し、学校生活を楽しんでいる。しかし、人と関わり合う機会の不足や、コミュニケーションを苦手とする子どもの増加が原因と思われる、対人関係のトラブルや自己中心的な行動も多く見られ、学校においてもよりよい対人関係の在り方を学ぶ必要性が増している。そのために、道徳教育は欠かせない。

道徳教育においては、「道徳の時間」が教科化され、小学校では平成30年度より完全実施される。新学習指導要領に示された通り、「考え、議論する」授業や「実効性のある」授業が求められ

ている。また、「物事を多面的・多角的に考える」ことも必要とされている。道徳教育を推進して、確かな道徳性を育てる取り組みは、現代の子どもたちが抱える課題を解決する一助になることは間違いない。

そこで、道徳教育を中心とした教育活動に取り組む中で、子どもたちの社会性・道徳性を高め、21 世紀を生き抜くために必要な資質を育てていきたいと考え、本主題「豊かな心をもち、21 世紀をたくましく生き抜く子どもの育成—道徳的教育課程を中心として—」を設定した。

4 研究の概要

(1)めざす子ども像

- ・道徳的諸価値を自分事として受け止め、よりよい行動の仕方を考える子。
[豊かな心をもつ子]
- ・自分の考えや行動を見つめ、精いっぱい活動しようとする子。
[たくましい心をもつ子]
- ・道徳的な実践を行い、温かな人間関係を築こうとする子。
[21 世紀を生き抜く力をもつ子]

(2)研究仮説と手だて

めざす子ども像を具現化し、研究主題を達成するために3つの仮説を立て、それを支えるための手だてを以下のように考えた。

仮説1 【豊かな心を育むために】

年間指導計画に沿って計画的に道徳科の授業を行い、授業展開を工夫すれば、子どもたちは道徳的諸価値を自分事として受け止め、主体的によりよい行動の仕方を考えることができるであろう。

仮説1 に対する手だて

(1) 年間指導計画の作成

(2) よりよい行動についての考えをもつための道徳科の授業展開の工夫

①授業形態の工夫

ア 価値追究型

ねらいとする道徳的価値についての共感や理解を中心とした授業

イ 問題解決型

教材に描かれた問題点を解決するための考え方や、行動の在り方を探る授業

ウ 価値選択型（本論では論述しない。形態の1つとして示す。）

複数の道徳的価値が描かれた教材について、どの価値を優先するかを考える授業

②授業展開の工夫

ア 導入の工夫

- ・子どもの意識を把握するアンケート
- ・本時の学習内容を意識づける導入

イ 子どもの意識を大切にしたい中心発問

ウ 自分事としてとらえるための展開後半の学習活動

- ・自分を見つめるための発問
- ・汎用性、応用性を確認する活動（役割演技など）

仮説2 【たくましい心を育むために】

道徳科の授業および道徳教育に関連する諸活動の評価において、個を伸ばすための支援をすれば、自分の考えや行動を見つめ直し、精いっぱい明るく行動することができるであろう。

・評価の工夫

①抽出児童を伸ばす道徳科の評価

②自分の考えや行動を見つめ直すための1枚ポートフォリオ

仮説3 【21 世紀を生き抜く資質を養うために】

学校行事や他の教科・領域との関連を図った総合的な単元を実践すれば、高められた道徳性

を実践する機会ができ、温かな人間関係を築くことができるであろう。

- ・「フレンドシップユニット」の設定

道徳科の授業と学校行事や他の教科・領域とを意図的・計画的に結びつけた総合単元のことを、本校では「フレンドシップユニット」と名付けた。年間指導計画に明記することで、担任が計画的に実践できるようにした。各学年、学期に1～2回の実践を行い、教科の学習や学校行事に合わせて、関連する内容の道徳科の授業を行う。

5 研究の評価

(1) 研究の成果

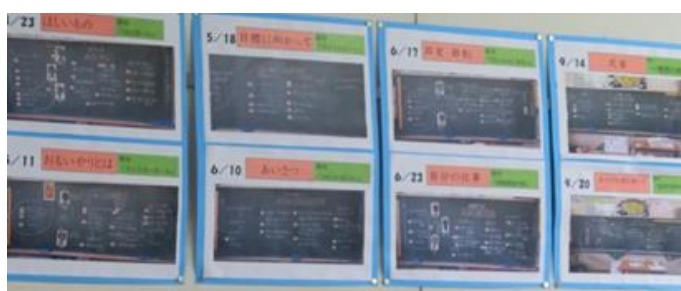
① 年間指導計画の作成

これまでの「道徳の時間」の年間指導計画を見直し、道徳科を中心とした年間指導計画を作成した。資料2は6年生の指導計画の抜粋である。道徳科の学習指導要領に示された内容項目をすべて履修できるように教材を配置した。そして、次ページに示すように、教材名の欄の末尾に、価値追及型の授業には【テ】（作成の段階では、価値追及型の授業を「テーマ発問」としていたため【テ】と表記されている）問題解決型の授業には【問】、のなどの記号をつけ、その教材に適した指導法を示すようにした。（表中朱線囲み）ただしこれは、指導法を限定するものではない。指導の基本として活用できるようにしている。

月	時間	番号	内容	教材名・指導法	他の活動との関連・スキル学習
4	1	B7	親切、感謝	おばあちゃんの指定席 【問】	あいさつ運動
	2	B9	礼儀	ごめんなさい 【テ】	あいさつ運動、登下校
	3	C14	社会参画、公共の精神	遊び場づくり 【テ】	5Sタイム
5	4	A5	克己と強い意志	二重とびへの挑戦 【問】	運動会〈行・体〉
	5	D20	友情、信頼	ロレンソの友達 【問】	【ユ】運動会〈行・体〉、仲間づくり〈ス〉、「風切るつばさ」〈国〉
	6	C12	遵法精神、公徳心	みんなのために 【問】	四面鏡〈ス〉
6	7	C17	郷土愛	瀬戸の明日のために 【テ】	40周年記念事業〈行〉
	8	C13	公正、公平、社会正義	モントゴメリーのバス 【問】	児童会活動
	9	D19	生命の尊さ	おじいちゃんの命 【テ】	いじめ撲滅集会〈行〉
	10	C15	家族愛	真っ赤な自転車 【テ】	朝食を工夫しよう〈家〉

また、他の活動やスキル学習（ソーシャルスキルトレーニングやエンカウンター）との関連も明記し、意識して教育活動全般を通して道徳学習を行えるようにした。さらに、「フレンドシップユニット」を二重線で囲んで【ユ】の記号で示し、計画的に実践できるようにした。

このように年間指導計画を立てることにより、週1回の道徳科の授業が確実に行われるようになった。写真は、5年生の学級掲示である。各学級で道徳科の授業の板書を写真に撮り、掲示している。道徳の授業を確実に行うことで、子どもたちの心を成長させる土台作りを行っている。



② 「問題解決型」の授業

次ページの資料のような展開で、授業を行った。

個を伸ばす評価をするために、本時ではA児を抽出児に設定して変容を追うことにした。Aは授業前、教師との会話の中で、片付けや整頓をする理由として、「お母さんに叱られるから」と言っていた。そこで、教材「きいろいベンチ」を用いて授業を行った。

問題解決型の展開にすることにより、子どもたちは、「みんなで使うもの」のよりよい使い方について考えることをねらいとした。

展開前段では、教材「きいろいベンチ」を用いて、主人公がどのように紙飛行機で遊べばよかったの

かについて、話し合った。教師は、行動の仕方だけでなく、「どうして」などと問い返すことにより、「後から使う人が気持ちよく使えるように」という考えに気づかせることができた。

展開後段では、「友達が、本を使って遊ぼう」と誘ってきたらどうするかという、別の場面を提示して、前半で話し合ったことが実際にできるのかを、役割演技によって確かめた。

これらの活動により、A児は、授業の終末で「これからかならずトイレのスリッパをそろえる。あとでつかうときにきれいになっていたほうが気持ちがいいから。」とワークシートに書いた。A児を意図的に指名したり、価値に気づいている子どもと関わらせたりすることで、A児はねらいとした価値に気づくことができた。

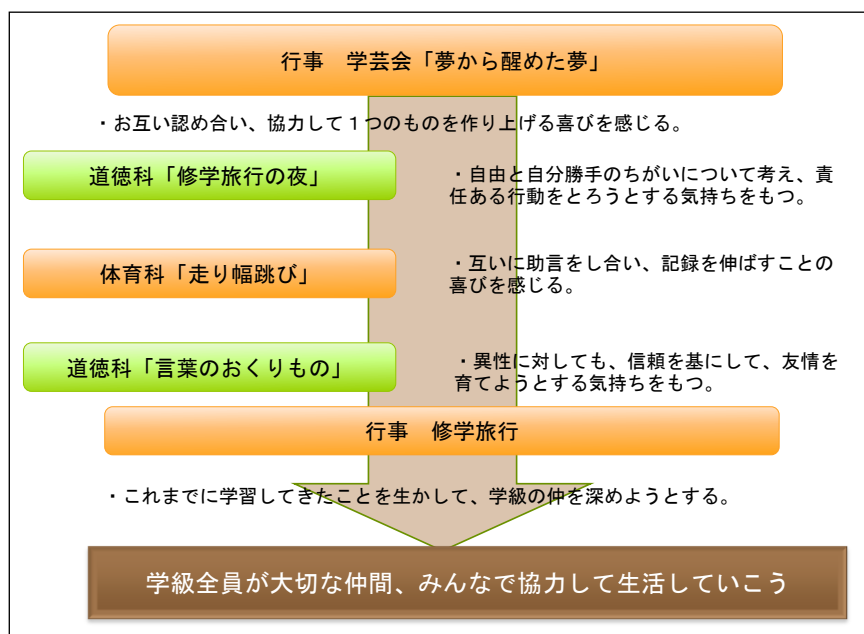
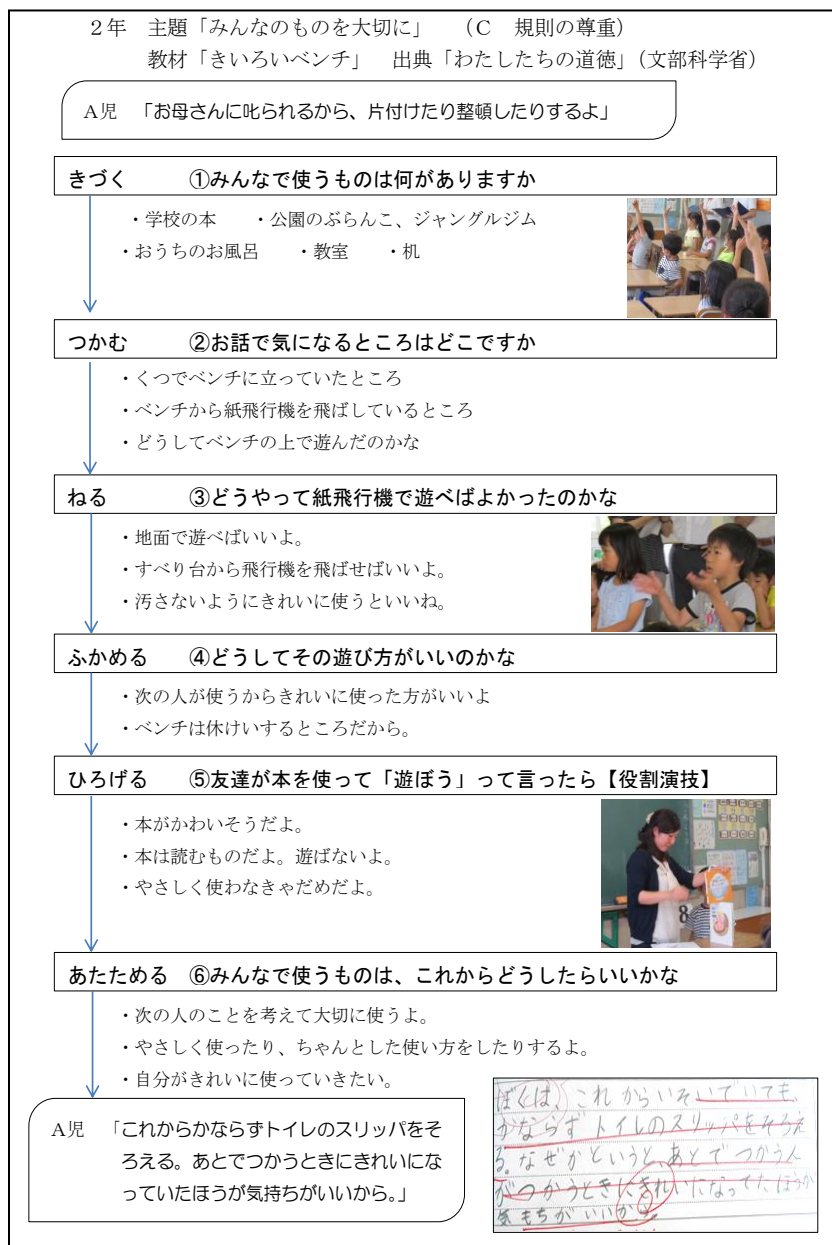
問題解決型の授業を展開することで、子どもたちは、ねらいとした道徳的価値について、自分事として受け止め、主体的によりよい行動の仕方を考えることができた。また、抽出児を設定して丁寧に変容を追って評価することは、個を伸ばすための手だてとして有効であることが分かった。

③フレンドシップユニットの実践

道徳科の授業と学校行事や他の教科・領域とを意図的・計画的に結びつけた総合単元のことを、本校では「フレンドシップユニット」と名付けた。年間指導計画に明記することで、担任が計画的に実践できるようにした。各学年、学期に1～2回の実践を行い、教科の学習や学校行事に合わせて、関連する内容の道徳科の授業を行っている。以下に、フレンドシップユニットの実践例を紹介する。

ア 単元計画とねらい

右のように、「ジグソーパズル完成への道のり」を計画した。「ジグソーパズル」とは、本学級6年2組の級訓であり、一人一人が力を合わせて、クラスの団結を高めよう



フレンドシップユニット「ジグソーパズル完成への道のり」の単元計画

という願いが込められている。このテーマのもと、学級全員が仲間として、協力して生活していこうとする気持ちを高めることをねらった単元である。

イ 抽出児について

抽出児童Bについては、下に示したとおりである。

係活動、宿題など、やるべきことはきちんと行うことができる。自分のことをこなすことが中心で、級友と積極的にかかわろうとはしない。やや冷めた感じで、人と接する。

抽出児Bについて

実践する中で、周りの人たちとかかわることの大切さを実感し、学級に積極的に協力するようになることを願った。実践に当たり、右のような、1枚ポートフォリオを作成した。抽出児童B児のポートフォリオである。ここでは、各活動の記録から、B児の変容の様子を検証する。

ウ 単元の実際

・学芸会「夢から醒めた夢」

本単元のスタートを学芸会とした。互いに協力して、一つのものを作り上げることの良さを実感させたいと考えた。学芸会を終えたときの記録（一部抜粋）を右に示す。

「一生懸命やった」と書いている。しかし、「周りの人に音が消されないように」という記述からも分かるように、自分本位な面がまだ見受けられる。ポートフォリオ（下線A）には、「アドバイスをした」「6の2のいいところを見つけた」とは書かれているが、具体的な記述がない。そこで、道徳科「修学旅行の夜」を行い、「自由」について考えるようにした。

・道徳科「修学旅行の夜」（内容項目C 自由と責任）

授業は、「本当の自由とは何か」を学習課題として行った。子どもたちは「自分勝手」と「自由」の違いについて話し合った。B児は、本時での発言はなかったが、級友の意見を真剣な表情で聞く姿が見られた。ポートフォリオの記録（下線B）「私は、自分勝手な時があったかな。」と書いている。記録に「私は」という言葉が入るようになった。自分のこととして考え始めている。

・道徳科「言葉のおくりもの」（内容項目B 友情、信頼）

本時の学習課題は「すみ子（主人公）はどんな気持ちで言葉の贈り物をしたのだろうか」となった。終末で、B児はノートに以下のような記述をした。

「やった方がいいと思ったことは行動する」という言葉から、道徳科の授業で高められた心情を、実践しようとする気持ちが表れている。さらに、ポートフォリオには、ここでも「私は」という言葉で書き始めている。（下線C）主体的な気持ちがここに現れている。友達に対して積極的にかわっていくことが期待できる。

ジグソーパズル完成への道のり

6年2組
よりよいジグソーパズルを完成させるために考えたこと、感じたことを書きましょう。

学芸会	道徳「言葉のおくりもの」
A みんなで、いい劇にしよう と、アドバイスをしたり いいことみけ隊のカード で6の2のいいところ を見つけた。	C 私は男女仲のいいクラ スや、友達を傷つけな いクラスにしたいと 思った。こんな事をし ていて、級訓のお うけいなりな子に なりたいと思った。
修学旅行	道徳「修学旅行の夜」
D 友達とアドバイスをしあ う。何か悪かったかをい ふ。友達のいいところを 見つけあて、いろいろな いいところが発見でき てよかった。	B 本当の自由とは何か、とい うことを考えた。私は、自分 勝手な時があったかなと思 った。よりよいジグソーパズル を完成させるために、本当の自 由がいいと思った。
まとめ 学芸会、走り幅跳び、修学旅行を通して、友達のいいところ、たくさん見つけあてた。言葉のおくりもの、修学旅行の夜を通して、やり、仲のいいクラスにしたいと思った。5つのことをやり、こんなクラスにして、こんな友達がいい。ということ考えることができたのでよかった。	

私は学芸会でエンジェルの役をしました。
エンジェルはセリフが多い方では無いけれど一
人ひとりに命を吹き込みました。歌では、ビコ
の所を、歌がとでも少ないので周りの
人に音を消されないように大きな口で歌う
ように意識しました。

児童Bの学芸会の記録

私は、みんなが仲良く、みんなで助け合える。そんな
学級にしたいと思いました。一郎には、すみ
子と仲良くしたいという気持ちがあるかもしれない
けど、たちがいいと思ったことは行動するとい
うようにしていきたい。

・体育科「走り幅跳び」

授業を終えたとき、囲みDのようにポートフォリオに書いた。学芸会では、「みんなに」や「6-2の」と書いていたB児が、「友達」と書くようになっている。また、「しあって」「いいあって」という言葉からも、上手に友達とかかわり合いながら活動していたことが伝わってくる。

・修学旅行

本校の修学旅行は、1日目に奈良で2時間、2日目は京都で終日班別活動を行っている。友達と過ごす時間が長くなる。フレンドシップユニットで学んだことを実践する絶好の機会である。B児のグループは、2日間協力し合って活動できたようである。修学旅行後に書いたポートフォリオが囲みEみの部分である。「そんなに仲良くなかった子とたくさんしゃべれた」「どんどんしゃべっていいこう」とあるように、B児が友達と積極的にかかわることのよさを感じ、今後も実践していいこうとする姿が、ここに書かれている。フレンドシップユニットを実践したことにより、高められた道徳性を実践し、温かな人間関係を築き始めている。

・単元を終えて

ポートフォリオのまとめの記述を以下に示す。

学芸会、走り幅跳び、修学旅行を通して、友達のいいところを、たくさん見つけあった。言葉のおくりもの、修学旅行の夜を道徳でやり、仲のいいクラスにしたいと思った。5つのことをやり、こんなクラスにして、こんな友達がいい。ということを考えることができたのでよかった。

B児のポートフォリオのまとめ

フレンドシップユニットを実践するにあたり、1枚のポートフォリオに記録していったことで、子どもが自分自身の考えを見つめることができています。教師も子どもの変容を見取ることができた。下線部「5つのことをやり」というように、子どもが授業のつながりを意識して、授業を振り返ることができた。

④まとめ

ア 仮説1について

年間計画の作成により、道徳の授業が各学級で確実に行われるようになってきている。子どもの道徳性を育てる土台ができあがりつつある。授業形態の工夫により、教師は授業のねらいを明確にして授業に臨むことができる。とくに、「問題解決型」の授業展開は、抽出児Aのように道徳的価値への気づきを促し、よりよい行動の仕方を考える手だてとなっている。

イ 仮説2について

抽出児を設定し、その様子を丁寧に追うことは個を伸ばすための手だてとなっている。フレンドシップユニットの実践では、1枚ポートフォリオを用いたことで、教師は子どもの変容を把握することができた。子どもは、しっかりと自分の行動を振り返ることができた。ただし、評価の方法については、さらに研究を重ね、より適切な支援をしていく必要がある。

ウ 仮説3について

道徳科の学習と、他の活動を意図的に結びつけようとした「フレンドシップユニット」の実践は、児童Bの姿に見られるように、道徳科の学習で高められた価値観を実践に移す機会となった。児童Bは、級友と温かな人間関係を築きつつある。

(2) 今後の課題と取組

研究を継続するにあたり、以下のことをはじめ、課題も数多く残っている。

- ・問題解決型の授業の展開後段において、いかに有効な別場面の提示をするか
- ・道徳科における評価について、さらに効果的な方法はないか、また、通知表や指導要録における文章での評価をどのようにしていくか
- ・ポートフォリオで見取った子どもの姿から、どのように有効な支援を行うか

来年度の岡崎市教育委員会委嘱の研究発表会に向け、これらの課題を解決する方法を探りながら研究を継続したい。